

Adobe® LiveCycle® ES4 - Connector for Microsoft® SharePoint® の設定

法律上の注意

法律上の注意については、http://help.adobe.com/ja_JP/legalnotices/index.htmlを参照してください。

目次

Connector for Microsoft SharePoint の設定

概要	1
エンタープライズドメインユーザーの設定	1
SharePoint ユーザーの設定	3
LC バインディングユーザーの作成	3
仮装ユーザーの定義	3
Connector for Microsoft SharePoint の設定	4
ポリシーセットおよびポリシーの設定	4
SharePoint サイトの設定	4
タスク管理の設定	7
フォームの統合	7
ログの設定	8
SharePoint サイトでの LiveCycle ワークフローの設定	8
PDF ドキュメントの検索の有効化	9
ConnectorForMSSharePoint サービスの使用	9
SharePoint 2007 サイトでの LiveCycle 機能の管理	10
(オプション) 100 MB を超えるファイルをサポートするための LiveCycle 11 Connector for Microsoft SharePoint の設定	16

Connector for Microsoft SharePoint の設定

概要

Adobe® LiveCycle® 11 Connector for Microsoft® SharePoint® の設定では次のタスクを実行します。

- 1 Connector for SharePoint の Web パーツが SharePoint サーバーにインストールされていることを確認します。
- 2 LiveCycle のユーザーアカウントを設定します。
 - 1 ページの「[エンタープライズドメインユーザーの設定](#)」
 - 3 ページの「[SharePoint ユーザーの設定](#)」
 - 3 ページの「[LC バインディングユーザーの作成](#)」
 - 3 ページの「[仮装ユーザーの定義](#)」
- 3 LiveCycle のインストールを設定します。
 - 4 ページの「[Connector for Microsoft SharePoint の設定](#)」(オプション)
 - 4 ページの「[ポリシーセットおよびポリシーの設定](#)」
- 4 4 ページの「[SharePoint サイトの設定](#)」
- 5 7 ページの「[タスク管理の設定](#)」(Microsoft SharePoint Server 2010)
- 6 7 ページの「[フォームの統合](#)」(Microsoft SharePoint Server 2010)
- 7 8 ページの「[ログの設定](#)」
- 8 8 ページの「[SharePoint サイトでの LiveCycle ワークフローの設定](#)」(オプション)
- 9 9 ページの「[PDF ドキュメントの検索の有効化](#)」
- 10 9 ページの「[ConnectorForMSSharePoint サービスの使用](#)」
- 11 10 ページの「[SharePoint 2007 サイトでの LiveCycle 機能の管理](#)」

エンタープライズドメインユーザーの設定

SharePoint ユーザーアカウントが LiveCycle サーバー上で認識されるようにするには、LiveCycle と SharePoint ユーザーアカウントを同じユーザーディレクトリ (LDAP ディレクトリなど) と同期させます。ユーザーアカウントとユーザーディレクトリを同期させることによって、ユーザーは SharePoint サイトの Adobe® LiveCycle® Rights Management 11 機能にアクセスできるようになります。同期後、サービスユーザーロールを LiveCycle サーバーで認識されている SharePoint ユーザーアカウントにアサインします。

エンタープライズドメインユーザーを設定するには、次の手順を実行します。Connector for Microsoft SharePoint をインストールする前にエンタープライズドメインユーザーを設定した場合は、手順 3 のみ実行します。

- 1 管理コンソールにログインし、**設定 / User Management / ドメインの管理**をクリックします。
- 2 「**新規エンタープライズドメイン**」をクリックして、ドメイン ID と名前を入力します。

ドメイン ID は、ドメインの一意の識別子です。LiveCycle データベースとして DB2 を使用している場合、ID の許容される最大長は、1 バイト (ASCII) 文字で 100 文字、2 バイト文字で 50 文字、または 4 バイト文字で 25 文字です。同様に、LiveCycle データベースとして MySQL を使用している場合、ID には 1 バイト (ASCII) 文字のみを使用してください。[LiveCycle 管理ヘルプ](#)の「エンタープライズドメインの追加」を参照してください。

3 カスタム認証プロバイダを追加するには、「**認証を追加**」をクリックして以下のタスクを実行します。

- 「**認証プロバイダ**」リストで「**カスタム**」を選択します。
- 「**MSSharePointAuthProvider**」を選択して、「**OK**」をクリックします。

注意：MSSharePointAuthProvider サービスを使用できない場合、アプリケーションサーバーを再起動します。
Connector for Microsoft SharePoint のインストールと設定を行った後にサーバーを再起動すると、LiveCycle サーバーで MSSharePointAuthProvider サービスがカスタム認証プロバイダーとして認識されるようになります。

4 LDAP 認証プロバイダを追加するには、「**認証を追加**」をクリックして以下のタスクを実行します。

- 「**認証プロバイダ**」リストで「**LDAP**」を選択します。
- 「**OK**」をクリックします。

5 LDAP ディレクトリを追加するには、「**ディレクトリを追加**」をクリックして以下のタスクを実行します。

- 「**プロファイル名**」ボックスに一意の名前を入力し、「**次へ**」をクリックします。
- 「サーバー」、「ポート」、「SSL」、「バインド」および「ページに次の情報を入力」オプションの値を指定します。「バインド」オプションで「ユーザー」を選択する場合は、「名前」フィールドと「パスワード」フィールドにも値を指定します。
- (オプション) 必要に応じてベースドメイン名を取得するには、「**BaseDN を取得**」を選択します。
- 「**次へ**」をクリックします。
- ユーザー設定を行い「**次へ**」をクリックします。
- グループ設定を行い「**次へ**」をクリックします。

設定について詳しくは、ページの右上隅にある **User Management** ヘルプをクリックします。

6 「**完了**」をクリックして「**ディレクトリを追加**」ページを閉じ、もう一度「**OK**」をクリックします。

7 作成したエンタープライズドメインを選択し、「**今すぐ同期**」をクリックします。LDAP ネットワークのユーザーとグループの数および接続の速度によって、同期処理は数分かかる場合があります。

(オプション) 同期のステータスを確認するには、「**更新**」をクリックし、「現在の同期の状態」列にステータスを表示します。

8 **設定 / User Management / ユーザーとグループ**をクリックします。

9 LDAP から同期されたユーザーを検索し、ロールをアサインするには、以下のタスクを実行します。

- 1 つ以上のユーザーを選択し、「**ロールをアサイン**」をクリックします。
- 1 つ以上の LiveCycle のロールを選択し、「**OK**」をクリックします。
- 「**OK**」をクリックして、ロールアサインを確認します。
- ロールをアサインするすべてのユーザーについて、この手順を繰り返します。

詳しくは、ページの右上隅にある **User Management** ヘルプをクリックします。

これらの手順を使用してエンタープライズドメインの認証プロバイダーを設定する場合、プロセスのコンテキストを使用して Adobe® LiveCycle® Workbench 11 から呼び出されるプロセスでは、そのプロセスを開始しているユーザーのコンテキストが使用されます。詳しくは、[Workbench ヘルプ](#)を参照してください。

SharePoint ユーザーの設定

SharePoint サイトでは、2 種類の SharePoint ユーザーを設定できます。

- Rights Management 機能を実装しない場合、またはユーザーに LiveCycle プロセスの開始を許可しない場合は、ユーザーをローカルユーザー、またはユーザーディレクトリ（Active Directory または LDAP）に追加されるユーザーとして設定できます。
- Rights Management 機能を実装する、またはユーザーに LiveCycle プロセスの開始を許可するには、LiveCycle と同期するユーザーディレクトリ（Active Directory または LDAP）にユーザーが含まれていることを確認します。また、ユーザーにサービスユーザーロールを付与します。

LC バインディングユーザーの作成

SharePoint サイトでは、LC バインディングユーザーの秘密鍵証明書を使用して、指定された LiveCycle サーバーに接続します。接続が確立すると、Adobe® LiveCycle® PDF Generator 11 や Adobe® LiveCycle® Reader® Extensions 11 の設定など、様々な設定が LiveCycle サーバーから取得され、SharePoint サーバーで使用できるようになります。

LC バインディングユーザーは、LiveCycle サーバーでサービスユーザーロールがアサインされたローカルユーザーまたはエンタープライズユーザーです。SharePoint サイトを設定する際、LC バインディングユーザーの秘密鍵証明書を「ユーザー名」フィールドと「パスワード」フィールドに入力します。手順について詳しくは、4 ページの「[SharePoint サイトの設定](#)」を参照してください。

仮装ユーザーの定義

仮装制御の権限

SharePoint ユーザーが LiveCycle プロセスまたは Rights Management アクションを呼び出すと、SharePoint サーバーから LiveCycle サーバーに要求が送信されます。このとき、仮装ユーザーの秘密鍵証明書を使用して、LiveCycle サーバーにログオンします。ログオン後、プロセスまたはアクションを呼び出している SharePoint ユーザーの ID が LiveCycle サーバーで確認されます。SharePoint ユーザーが必要な権限を持っている場合、プロセスが実行されるか、現在ログインしている SharePoint ユーザーにポリシーが適用されます。

SharePoint ユーザーに LiveCycle プロセスの呼び出しや Rights Management 機能の使用を許可するには、仮装ユーザーを設定します。管理コンソールを使用して Connector for Microsoft SharePoint を設定するときに、仮装ユーザーの詳細情報を入力します。

仮装権限の付与

- 1 管理コンソールで、Identity Impersonation Control 権限をアサインするユーザーアカウントを作成します。
ユーザーディレクトリと同期できるユーザーアカウントが作成されます。
- 2 Identity Impersonation Control 権限を持つロールを作成し、作成したユーザーアカウントにこのロールをアサインします。
これらの権限により、必要な秘密鍵証明書は LiveCycle サーバーにデプロイされている SharePoint Connector コンポーネントに付与されます。
- 3 サービス/アプリケーションおよびサービス/サービスの管理に移動します。

- 4 カテゴリリストから、「**Connector for MSSharePoint**」を選択します。
- 5 サービスの管理ページで、「**MSSharePointConfigService**」をクリックします。
- 6 MSSharePointConfigService の設定ページで、作成したユーザーアカウントのユーザー名とパスワードを追加します。
- 7 「**保存**」をクリックします。

Connector for Microsoft SharePoint の設定

インストールおよび設定のプロセスで Adobe® LiveCycle® Configuration Manager を使用して Connector for Microsoft SharePoint を設定しなかった場合は、管理コンソールを使用して設定します。

- 1 管理コンソールにログインします。
- 2 サービス / **Connector for Microsoft SharePoint** に移動します。
- 3 SharePoint Connector のプロパティページで、次の情報を入力します。

ホスト名：SharePoint サーバーのホスト名を [host]:[port] の形式で入力します。SharePoint サーバー上の Web アプリケーションのポート番号を指定します。

ユーザー名およびパスワード：SharePoint サーバーへの接続に使用するユーザーアカウントを指定します。SharePoint ユーザーに Rights Management 機能へのアクセスまたは LiveCycle プロセスの呼び出しを許可するには、仮装ユーザーの詳細情報を指定します。3 ページの「[仮装ユーザーの定義](#)」を参照してください。

Domain Name：SharePoint サーバーが存在しているドメインを入力します。

SharePoint バージョン Microsoft SharePoint サーバーのバージョンを選択します。

注意：Adobe LiveCycle ES4 SP1 から、Microsoft SharePoint のコネクタが SharePoint 2013 をサポートします。SharePoint 2013 を使用している場合、SharePoint のコネクタを構成するときは特にこのバージョンを選択します。

ポリシーセットおよびポリシーの設定

Rights Management を使用して、SharePoint サイトで使用できるファイルを保護する場合は、次の作業を実行する必要があります。

- ポリシーセットおよびポリシーの作成
- ポリシーセットおよびポリシーへの Active Directory ユーザーの追加

ポリシーセットおよびポリシー（ポリシーセット内）では、ポリシーが適用されるドキュメントのユーザー権限を指定します。ポリシーおよびポリシーセットについて詳しくは、[Rights Management ヘルプ](#)を参照してください。

SharePoint サイトの設定

SharePoint サイトで LiveCycle サーバーを設定して、SharePoint ユーザーが SharePoint サイトから LiveCycle プロセスを呼び出すことができるようにします。

- 1 ユーザー名とパスワードを使用して SharePoint サイトにログインします。
- 2 サイトページで、**サイトの操作 / サイトの設定**をクリックします。
- 3 サイトの設定ページの「Adobe LiveCycle」で、「**LiveCycle 設定**」をクリックします。

4 サーバーパラメーターを入力します。

- **ホスト名およびポート番号**：LiveCycle サーバーをホストするマシンのホスト名とポートを入力します。
- **ユーザー名およびパスワード**：SharePoint サイトから機能を開始するユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。サーバーで、このユーザーアカウントにサービスユーザーロールが設定されている必要があります。入力する必要があるユーザーアカウントの種類については、3 ページの「[LC バインディングユーザーの作成](#)」を参照してください。LiveCycle でのサービスおよびユーザーアカウントの設定について詳しくは、[LiveCycle 管理ヘルプ](#)を参照してください。

5 「HTTPS 接続を有効にする」を選択して、LiveCycle サーバーに安全に接続します。

注意：LiveCycle も、セキュアモード（HTTPS）で動作している必要があります。また、デフォルトのセキュアポートは http ポートと異なっているのが普通なので、手順 4 のポート番号の設定もそれに応じて変更してください。

6 PDF Generator の設定を入力します。

5 ページの「[PDF Generator の設定](#)」を参照してください。

7 Reader Extensions の設定を指定します。

5 ページの「[Reader Extensions の設定](#)」を参照してください。

8 Rights Management の設定を入力します。

6 ページの「[Rights Management の設定](#)」を参照してください。

9 「適用」をクリックします。

PDF Generator の設定

ユーザーが「Adobe PDF に変換」操作を呼び出すことができるようにするには、次の設定を指定するだけでなく、PDF Generator が LiveCycle サーバーで使用できることも確認します。PDF Generator について詳しくは、[管理ヘルプ](#)を参照してください。

1 次のいずれかの手順を実行します。

- 手動で設定を行うには、「**ユーザー定義の設定を使用**」を選択します。
- PDF 設定ファイル（JOBOPTIONS ファイル）を使用して PDF 設定を行うには、「**アップロードする設定ファイル**」を選択します。このオプションを選択すると、すべての PDF 設定オプションが無効になります。

2 「ユーザー定義の設定を使用」オプションを選択した場合、次のフィールドに値を指定します。

- **ファイルタイプの設定** 生成される PDF ファイルに適用される設定を選択します。
- **Adobe PDF 設定** 生成される PDF ファイルに適用される出力設定を選択します。
- **セキュリティ設定** 生成される PDF ファイルのセキュリティ設定を指定します。
- **タイムアウト** 変換が完了するまでの最大時間を入力します。
- **XMP ドキュメント** メタデータ情報を含むファイルを表示し、選択して、生成される PDF ファイルに適用します。
- **設定ドキュメント** PDF ファイルの生成時に適用される設定を含むドキュメントを表示し、選択します。

Reader Extensions の設定

ユーザー側で使用権限を PDF ドキュメントに適用するためには、LiveCycle サーバーで Reader Extensions を使用できるようにしておく必要があります。さらに、次の項目を設定します。Reader Extension について詳しくは、[管理ヘルプ](#)を参照してください。

- **証明書エイリアス** 使用権限の付与に使用する秘密鍵証明書エイリアスを選択します。

- **使用権限オプションを適用** 使用権限を PDF ファイルに適用する際に使用する実行時オプションを選択します。使用権限を PDF ドキュメントに適用するには、1 つ以上のオプションを選択する必要があります。

オプション	説明
基本フォームに記入	<p>フォームへの記入と記入したフォームの送信をユーザーに許可します。</p> <p>フォームデータの読み込みおよび書き出し Adobe PDF フォームからのフォームデータの読み込みおよび書き出しをユーザーに許可します。</p> <p>Web ブラウザー以外で送信 Adobe® Reader を使用して記入されたフォームを送信することをユーザーに許可します。</p> <p>データベースと Web サービスの接続性 PDF ドキュメントをオンラインフォームとして使用することを許可します。</p> <p>フォームフィールドを追加、削除、および変更 PDF ドキュメントで、既存の記入されているフォームフィールドを編集することを許可します。</p> <p>テンプレートからページを作成 Adobe PDF ドキュメントでフォームテンプレートからページを作成することをユーザーに許可します。</p>
2D バーコードのデコード	PDF ドキュメントの二次元バーコードのデコードを許可します。
電子署名	PDF ドキュメントへの電子署名の追加を許可します。
コメント	PDF ドキュメントのオフラインでのコメントを許可します。
埋め込まれた添付ファイル	PDF ドキュメントへの添付ファイルの埋め込みを許可します。
ドラフトレベル	PDF ドキュメントをドラフトコピーまたは最終コピーとして保存することをユーザーに許可します。
Reader メッセージ	PDF ドキュメントに使用権限があることをユーザーに通知するために Adobe Reader 内で表示されるテキストです。

- **BLOB 用のデフォルトのプロトコルを選択** SharePoint サイトで SharePoint リポジトリと LiveCycle サーバーの間のバイナリファイルの交換に使用されるエンコードプロトコルを選択します。デフォルトは、Base64 エンコードです。

Rights Management の設定

ユーザー側でドキュメントにポリシー設定を適用するためには、LiveCycle サーバーで Rights Management を使用できるようにしておく必要があります。さらに、次の項目を設定します。(管理ヘルプを参照してください)。

- **ポリシーセット名**：ドキュメントの保護に使用するポリシーセットを指定します。ポリシーセットは、管理コンソールで定義されます。
- **ポリシー名**：ドキュメントの保護に使用するポリシーの名前を入力します。

Rights Management は、次のファイルタイプをサポートしています。

- Adobe PDF ドキュメント (.PDF)
- Microsoft Office 2003、2007 および 2010 ドキュメント (.DOC、.XLS、.PPT、.DOCX、.XLSX、.PPTX)

タスク管理の設定

SharePoint Server 2010 では、ユーザーおよびグループのタスクリストを設定すると、エンドユーザーが LiveCycle のユーザーおよびグループのタスクリストにアクセスできるようになります。

- 1 サイトのホームページで、「リスト」をクリックします。
- 2 「作成」をクリックします。
- 3 カスタムリストで、次のいずれかを実行します。
 - ユーザータスクリストを設定するには、「LiveCycle ユーザータスク」を選択します。
 - グループリストを設定するには、「LiveCycle グループタスク」を選択します。
- 4 リスト名を指定します。
- 5 「作成」をクリックします。

フォームの統合

SharePoint Server 2010 および SharePoint Server 2013 では、LiveCycle XDP フォームを SharePoint リストとして設定すると、SharePoint エンドユーザーが利用できるようになります。

- 1 SharePoint サイトにログインします。
- 2 サイトのホームページで、
 - (Sharepoint 2010) 「サイト操作」 > 「サイトの 設定」の順にクリックします。
 - (SharePoint 2013) 「設定」 > 「サイトの 設定」の順にクリックします。
- 3 サイトの設定ページの「Adobe LiveCycle」で、「**Adobe Forms ライブラリ**」をクリックします。
- 4 AdobeFormsLibrary ページで、「**アイテム**」タブをクリックします。
- 5 アイテムリボンで、**新しいアイテム** / **新しいアイテム**の順に選択します。

Adobe Forms ライブラリページが表示されます。このページのフィールドは、LiveCycle サーバーから取得したデータに基づいて設定されます。SharePoint サーバーで XDP フォームを設定する前に、必要なフォームが LiveCycle サーバーで設定されていることを確認してください。デフォルトの LCA (SharePoint 2010 は adobe-formintegrationformssharepoint.lca を、SharePoint 2013 は adobe-formintegrationformssharepoint2013.lca を使用) の指定されたプロセスを使用するか、LiveCycle で新しいプロセスを作成します。

使用できるデフォルトプロセスは次のとおりです。

- SharepointFormIntegrationApp/Processes/RenderAndSubmitProcess : フォームのレンダリングおよび送信
 - SharepointFormIntegrationApp/Processes/RenderProcess : フォームとフォームデータのレンダリングまたは表示用
 - SharepointFormIntegrationApp/Processes/RenderAndEdit : 既存フォームデータの編集用
- 6 リストの詳細情報を入力し、「作成」をクリックします。
 - 7 リストの権限を設定します。

ログの設定

SharePoint Server 2007 または 2010 のログ設定を指定します。

- 1 SharePoint サイトにログインします。
- 2 サイトのホームページで、**サイトの操作／サイトの設定**をクリックします。
- 3 サイトの設定ページの「Adobe LiveCycle」で、「**ログ設定**」をクリックします。
- 4 ログ設定ページで、サイトのログレベルを指定します。

注意：ログレベルは、SharePoint Server 2007 および 2010 に適用されます。SharePoint サーバー上のすべてのサイトのログレベルは、サイト管理者がサイトに適用した最新のログレベルに基づいて決定されます。例えば、サイト管理者がサイトのログレベルを DEBUG に設定し、その後、別のサイトのログレベルを INFO に設定すると、すべてのサイトのログレベルは INFO に設定されます。

- 5 SharePoint Server 2010 の場合、ログタイプを指定します。

- デフォルトでは、「ULS ログを有効にする」が選択されており、メッセージは統合ログシステムに記録されます。
- 「Windows イベントログを有効にする」を選択すると、イベントを記録できます。SharePoint サーバーで ULS ログが無効になっている場合、このオプションを選択することをお勧めします。

注意：イベントベースのログを設定するには、レジストリにイベントカテゴリを作成します。イベントカテゴリを作成する詳細な手順は、マイクロソフトサポートの Web サイト

(<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;329291>) を参照してください。キーを作成するときに、キー名として LiveCycleSharePointConnector を指定します。

- 6 「**適用**」をクリックします。

SharePoint サイトでの LiveCycle ワークフローの設定

LiveCycle プロセスを SharePoint 内から自動的に開始するには、SharePoint サイトで LiveCycle ワークフローを設定します。

- 1 サイトのホームページで、「**共有ドキュメント**」をクリックします。
- 2 次のいずれかの手順を実行します。
 - SharePoint Server 2007 の場合、共有ドキュメントページで、**設定／ドキュメントライブラリの設定**を選択します。
 - SharePoint Server 2010 の場合、「ライブラリ」タブに切り替え、「**ライブラリの設定**」を選択します。
- 3 「権限と管理」で、「**ワークフロー設定**」をクリックします。
- 4 「ワークフロー」で、「**ワークフローの追加**」をクリックします。
- 5 「**ワークフローテンプレートの選択**」リストで、「**Adobe LiveCycle Workflow**」を選択します。
- 6 必要な詳細情報を入力して、「**次へ**」をクリックします。タスクリストまたは履歴リストを作成する場合、リストの名前の先頭に、指定したワークフロー名が付けられます。
- 7 Adobe LiveCycle アクションを起動ページで、次の手順を実行します。
 - SharePoint ワークフローによって起動する LiveCycle アクションを選択します。「**LiveCycle プロセスを起動**」を選択する場合は、起動する LiveCycle プロセスを選択します。リストには、ドキュメントを入力パラメーターとして受け取る LiveCycle プロセスのみが表示されます。

- 選択したすべての LiveCycle のアクションについて、結果ドキュメントを保存する場所を指定します。デフォルトでは、結果ドキュメントはソースと同じ場所に保存されます。保存先としてユーザー定義の場所を選択するには、「ユーザー定義の場所」を選択して、CurrentSite ナビゲーションツリーで必要なフォルダーに移動します。

8 「送信」をクリックします。

PDF ドキュメントの検索の有効化

Connector for Microsoft SharePoint をインストールして設定したら、PDF ドキュメントでの検索を有効化します。デフォルトでは、SharePoint Server は PDF ドキュメントをクロールしません。

PDF ファイルタイプの追加

- 1 SharePoint Server のサーバーの全体管理コンソールにログインします。
- 2 左側のウィンドウで、「アプリケーションの全般設定」をクリックします。
- 3 「検索」で、「ファームの検索管理」をクリックします。
- 4 「Search Service アプリケーション」で、「Search Service アプリケーション」をクリックします。
- 5 左側のウィンドウの「クロール中」で、「ファイルの種類」をクリックします。
- 6 「新しいファイルの種類」をクリックして、「ファイル名拡張子」で pdf と入力して「OK」をクリックします。

SharePoint サービスの再起動

❖ マシン上で以下のサービスを再起動します。

- SharePoint Foundation Search
- SharePoint Server Search
- IIS Admin Service

注意：これらのサービスを再起動した後で、マシンの再起動を求められる場合があります。

SharePoint Server でのフルクロールの実行

- 1 SharePoint Server のサーバーの全体管理コンソールにログインします。
 - 2 左側のウィンドウで、「アプリケーションの全般設定」をクリックします。
 - 3 「検索」で、「ファームの検索管理」をクリックします。
 - 4 「Search Service アプリケーション」で、「Search Service アプリケーション」をクリックします。
 - 5 左側のウィンドウで、「コンテンツソース」をクリックします。
 - 6 「ローカルの SharePoint サイト」リストをクリックして、「フルクロールの開始」を選択します。
- フルクロールには数分かかる場合があります。フルクロールが完了すると、検索結果に PDF ドキュメントが表示されます。

ConnectorForMSSharePoint サービスの使用

ConnectorForMSSharePoint サービスは、Windows 認証タイプが設定された SharePoint Web アプリケーションに LiveCycle プロセスを接続する場合に使用できます。

注意：フォームの認証はサポートされていません。

ドメインユーザーの認証タイプとして Windows を使用する場合は、次の手順を実行します。

- すべての SharePoint サービスの操作で、ユーザー名を **domain\user** の形式で指定します。
- SharePoint Server のサーバーの全体管理コンソールで基本認証を有効にします (SharePoint 2010 の場合のみ)。詳しくは、SharePoint のヘルプを参照してください。

注意：SharePoint では基本認証と NTLM 認証が両方ともサポートされています。ただし、NTLM のサポートは Windows 上のユーザーについてのみです。ドメインユーザーを使用する場合は、SharePoint サイト上で、基本認証を有効にするか、基本認証と NTLM の両方を有効にしてください。

SharePoint 2007 サイトでの LiveCycle 機能の管理

デフォルトでは、SharePoint サーバーで LiveCycle 機能を使用できるように設定すると、LiveCycle サーバーで使用できる全機能を、SharePoint サーバーのすべてのサイトの設定に使用できるようになります。すべてのサイトのホストとなる SharePoint サーバーに SharePoint Connector の Web パーツをインストールしたので、LiveCycle サーバーの機能を使用できます。例えば、LiveCycle サーバーインスタンスに、LiveCycle サーバー上で使用できる Rights Management、PDF Generator および Reader Extensions がある場合、SharePoint サーバーのすべてのサイトでこれらの機能を使用できます。次の方法で、LiveCycle 機能を管理できます。

- サイト上で LiveCycle のすべての機能やワークフローを有効または無効にする
- すべてのサイトで LiveCycle 機能を選択して無効にする
- SharePoint サーバーから SharePoint Connector の Web パーツをアンインストールする

注意：SharePoint Server に変更を加えると、サーバー上のすべてのサイトが影響を受けます。LiveCycle 機能およびワークフローを有効または無効にする場合や、SharePoint Connector の Web パーツをアンインストールする場合には注意が必要です。

LiveCycle の機能またはワークフローの有効化と無効化

SharePoint サーバーの任意のサイトで、すべての LiveCycle 機能を無効にできます。この手順によって、指定したサイトから LiveCycle のすべての機能が削除されることに注意してください。指定したサイトに子サイトがある場合、LiveCycle 機能が無効になるのは親サイトだけです。例えば、`http://mysite:80` サイトで LiveCycle 機能を無効にしても、子サイトの `http://mysite:80/subsite` は影響を受けません。同様に、同じ SharePoint サーバー上のその他のサイトも影響を受けません。

一方、ワークフローの有効化または無効化はサイトのコレクションに対してのみ機能し、サイトやサブサイトには機能しません。つまり、ワークフローを有効または無効にするコマンドは URL が `http://mysite:80/` のサイトには機能しますが、`http://mysite:80/site` のサイトには機能しません。

LiveCycle の機能およびワークフローの無効化

- 1 コマンドプロンプトを開き、SharePoint Server をホストする Windows マシンの `%TEMPLATEDIR%\%FEATURES` フォルダに移動します。TEMPLATE ディレクトリのデフォルトの場所は、`C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\` です。
- 2 次のコマンドを入力します。
 - LiveCycle Connector 機能を WSS で無効にするには：
`%STSADM% -o deactivatefeature -filename LiveCycle\feature.xml -url %SITEURL% -force`
 - LiveCycle Workflow 機能を WSS で無効にするには：

```
%STSADM% -o deactivatefeature -name LiveCycle/Workflow -url %SITEURL% -force
```

これらのコマンドでは、変数を適切な値に置き換えます。これらのパラメーターについて詳しくは、LiveCycle インストールガイドの「付録 - SharePoint Server での Connector for Microsoft SharePoint の設定」を参照してください。

%STSADM% Web パーツのインストール時に定義した STSADM ユーティリティの場所。

%TEMPLATEDIR% SharePoint サーバー上の TEMPLATES ディレクトリ。

%SITEURL% LiveCycle 機能を無効にするサイトの URL。

3 IIS サーバーを再起動します。

LiveCycle の機能およびワークフローの有効化

1 コマンドプロンプトを開き、SharePoint Server をホストする Windows マシンの %TEMPLATEDIR%\FEATURES フォルダーに移動します。

2 次のコマンドを入力します。

- LiveCycle Connector 機能を WSS で有効にするには：

```
%STSADM% -o activatefeature -filename LiveCycle\feature.xml -url %SITEURL% -force
```

- LiveCycle Workflow 機能を WSS で有効にするには：

```
%STSADM% -o activatefeature -name LiveCycle/Workflow -url %SITEURL% -force
```

これらのコマンドでは、変数を適切な値に置き換えます。これらのパラメーターについて詳しくは、LiveCycle インストールガイドの「付録 - SharePoint Server での Connector for Microsoft SharePoint の設定」を参照してください。

3 IIS サーバーを再起動します。

すべての SharePoint サイトで LiveCycle 機能を選択して無効化

使用可能な LiveCycle サーバー機能を選択して無効にできます。この変更によって SharePoint サーバーのすべてのサイトが影響を受けることに注意してください。変更を行うには、

%TEMPLATEDIR%\FEATURES\LiveCycle\Elements.xml ファイルに定義された機能設定を削除します。

例えば、SharePoint サイトで PDF Generator 機能だけを使用できるようにするには、Elements.xml ファイルから Reader Extensions、Rights Management および Invoke Adobe LiveCycle Process の定義を削除します。これらの定義は、CustomAction 要素に囲まれています。機能を無効にするには、その機能に関連する CustomAction 要素を削除するか、コメントアウトします。例えば、Rights Management 機能を無効にするには、ID が LiveCycle.RightsManagement で始まる CustomAction 要素を削除します。

1 %TEMPLATEDIR%\FEATURES\LiveCycle フォルダーに移動し、Elements.xml ファイルのバックアップコピーを作成します。

2 Elements.xml ファイルをテキストエディターで開きます。

3 無効にする LiveCycle サーバー機能に応じて、その LiveCycle サーバー機能に関連する CustomAction 要素を特定し、その要素全体を削除します。

LiveCycle サーバーの機能	CustomAction 要素の ID	説明
Reader Extensions	LiveCycle.ApplyReaderExtensions	PDF ドキュメントでの Reader Extensions を有効にします

LiveCycle サーバーの機能	CustomAction 要素の ID	説明
Rights Management	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToPdf	PDF ドキュメントの権限保護を実行します
	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToDoc	Microsoft Word ドキュメントの権限保護を実行します
	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToXls	Microsoft Excel ドキュメントの権限保護を実行します
	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToPpt	Microsoft PowerPoint ドキュメントの権限保護を実行します
	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToDocx	Microsoft Word ドキュメントの権限保護を実行します
	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToXlsx	Microsoft Excel ドキュメントの権限保護を実行します
	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToPptx	Microsoft PowerPoint ドキュメントの権限保護を実行します
	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToDwg	Microsoft Excel ドキュメントの権限保護を実行します
	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToDxf	AutoCAD ドキュメントの権限保護を実行します
	LiveCycle.RightsManagement.ApplyPolicyToDwf	AutoCAD ドキュメントの権限保護を実行します

LiveCycle サーバーの機能	CustomAction 要素の ID	説明
PDF Generator	LiveCycle.GeneratePDFFromPdf	サイトの設定でファイルの種類として標準の OCR が使用された場合に、画像から作成された PDF をテキストベースの PDF に変換します
	LiveCycle.GeneratePDFFromDoc	Microsoft Word ドキュメントから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromPs	PostScript ファイルから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromEps	EPS ドキュメントから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromPrn	PRN ファイルから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromDocx	Microsoft Word 2007 ドキュメントから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromPpt	Microsoft PowerPoint ドキュメントから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromPptx	Microsoft PowerPoint ドキュメントから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromXls	Microsoft Excel ドキュメントから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromXlsx	Microsoft Excel ドキュメントから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromBmp	BMP ファイルから PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromGif	GIF 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromJpeg	JPEG 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromJpg	JPG 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromTiff	TIFF 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromTif	TIF 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromPng	PNG 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromJpf	JPF 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromJpx	JPX 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromJp2	JPEG 2000 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromJ2k	JPEG 2000 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromJ2c	JPEG 2000 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromJpc	JPEG 2000 画像から PDF を生成します
	LiveCycle.GeneratePDFFromHtm	HTM ドキュメントから PDF を生成します
LiveCycle.GeneratePDFFromHtml	HTML ドキュメントから PDF を生成します	
LiveCycle.GeneratePDFFromSwf	SWF ファイルから PDF を生成します	
LiveCycle.GeneratePDFFromFlv	Flash ビデオファイルから PDF を生成します	
LiveCycle.GeneratePDFFromTxt	テキストファイルから PDF を生成します	
LiveCycle.GeneratePDFFromRtf	リッチテキスト形式のファイルから PDF を生成します	

LiveCycle サーバーの機能	CustomAction 要素の ID	説明
LiveCycle プロセスを起動	LiveCycle.InvokeGenericLiveCycleProcessesOnALL	LiveCycle プロセスを起動します
Adobe Forms ライブラリ	AdobeFormsLibrary	SharePoint をフォームデータのレポジトリとして設定します。 CustomAction、ListTemplate および ListInstance 要素を削除します。
LiveCycle ユーザータスク	LiveCycleUserTasks	ユーザータスクを表示します。 ListTemplate 要素を削除します。
LiveCycle グループタスク	LiveCycleGroupTasks	グループタスクを表示します。 ListTemplate 要素を削除します。

4 Elements.xml ファイルを保存します。

5 IIS サーバーを再起動して変更を反映します。

LiveCycle Connector の Web パーツのアンインストール

SharePoint サーバーから Web パーツをアンインストールできます。アンインストール中に IIS サーバーが再起動されません。

- 1 次のテキストをテキストエディターにコピーし、必要な変更を加えます。これらのパラメーターについては、LiveCycle インストールガイドの「付録 - SharePoint Server での Connector for Microsoft SharePoint の設定」を参照してください。特殊な書式設定記号はテキストから削除してください。

```

set _my_datetime=%date% %time%
@echo on
echo Begin Uninstallation at %_my_date time%
echo "Customize <VER> <PORT> <SharepointServerNameOrIP> <SiteDirectory> <siteName> in this install.bat file. Verify gacutil.exe path."
@echo off
@SET GACUTILEXE="C:\Program Files\Microsoft SDKs\Windows\v6.0A\bin\gacutil.exe"
@SET TEMPLATEDIR="C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\web server extensions\<VER>\TEMPLATE"
@SET ISAPIDIR="C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\web server extensions\<VER>\ISAPI"
@SET RESOURCESDIR="C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\web server extensions\<VER>\Resources"
@SET WEBAPPDIR="C:\Inetpub\wwwroot\wss\VirtualDirectories\<Port>"
@SET SITEURL="http://<SharepointServerNameOrIP>:<port>/<SiteDirectory>/<siteName>/"
@SET STSADM="C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\web server extensions\<VER>\bin\stsadm.exe"
REM cd $(ProjectDir)
%GACUTILEXE% /nologo /u "AdobeLCSharepoint,Version=1.0.0.0,PublicKeyToken=6720cbcc342f4ca4" /f
%GACUTILEXE% /nologo /u "AdobeLiveCycleConnector,Version=1.0.0.0,PublicKeyToken=6720cbcc342f4ca4" /f
%GACUTILEXE% /nologo /u "AdobeLiveCycleWorkflow,Version=1.0.0.0,PublicKeyToken=6720cbcc342f4ca4" /f
%GACUTILEXE% /nologo /u "AdobeLCFormsIntgr,Version=1.0.0.0,PublicKeyToken=6720cbcc342f4ca4" /f
%GACUTILEXE% /nologo /u "AdobeLCFormsIntgrListExtnWebService,Version=1.0.0.0,PublicKeyToken=6720cbcc342f4ca4" /f
%GACUTILEXE% /nologo /u "AdobeLCEventManager,Version=1.0.0.0,PublicKeyToken=6720cbcc342f4ca4" /f
pushd %TEMPLATEDIR%\features
Echo Deactivating LiveCycle Connector feature with WSS
%STSADM% -o deactivatefeature -filename LiveCycle\feature.xml -url %SITEURL% -force
Echo Deactivating LiveCycle Workflow feature with WSS
%STSADM% -o deactivatefeature -name LiveCycle/Workflow -url %SITEURL% -force
Echo Uninstalling LiveCycle Connector with WSS
%STSADM% -o uninstallfeature -filename LiveCycle\feature.xml -force
Echo Uninstalling LiveCycle Workflow with WSS
    
```

```
%STSADM% -o uninstallfeature -name LiveCycle/Workflow -force
popd
Echo Removing source files from WSS \TEMPLATE directory
RMDIR %TEMPLATEDIR%\FEATURES\LiveCycle /S /Q
RMDIR %TEMPLATEDIR%\IMAGES\LiveCycle /S /Q
RMDIR %TEMPLATEDIR%\LAYOUTS\LiveCycle /S /Q
Echo Removing Custom Web Service files from WSS \ISAPI directory
RMDIR %ISAPIDIR%\LiveCycle /S /Q
Echo Removing Feature Resource files from WSS 12\Resources directory
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleConnectorCore.de-DE.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleConnectorCore.de.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleConnectorCore.en-US.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleConnectorCore.en.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleConnectorCore.fr-FR.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleConnectorCore.fr.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleConnectorCore.ja-JP.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleConnectorCore.ja.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleConnectorCore.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleFormsIntgrCore.de-DE.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleFormsIntgrCore.de.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleFormsIntgrCore.en-US.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleFormsIntgrCore.en.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleFormsIntgrCore.fr-FR.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleFormsIntgrCore.fr.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleFormsIntgrCore.ja-JP.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleFormsIntgrCore.ja.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleFormsIntgrCore.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleTaskManagerCore.de-DE.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleTaskManagerCore.de.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleTaskManagerCore.en-US.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleTaskManagerCore.en.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleTaskManagerCore.fr-FR.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleTaskManagerCore.fr.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleTaskManagerCore.ja-JP.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleTaskManagerCore.ja.resx /F /Q
Del %RESOURCESDIR%\AdobeLiveCycleTaskManagerCore.resx /F /Q
Echo Removing Resource files from %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources directory
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleConnector.de-DE.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleConnector.de.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleConnector.en-US.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleConnector.en.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleConnector.fr-FR.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleConnector.fr.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleConnector.ja-JP.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleConnector.ja.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleConnector.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleFormsIntgr.de-DE.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleFormsIntgr.de.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleFormsIntgr.en-US.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleFormsIntgr.en.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleFormsIntgr.fr-FR.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleFormsIntgr.fr.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleFormsIntgr.ja-JP.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleFormsIntgr.ja.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleFormsIntgr.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleTaskManager.de-DE.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleTaskManager.de.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleTaskManager.en-US.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleTaskManager.en.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleTaskManager.fr-FR.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleTaskManager.fr.resx /F /Q
Del %WEBAPPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleTaskManager.ja-JP.resx /F /Q
```

```
Del %WEBAPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleTaskManager.ja.resx /F /Q
Del %WEBAPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleTaskManager.resx /F /Q
Del %WEBAPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleWorkflow.de-DE.resx /F /Q
Del %WEBAPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleWorkflow.de.resx /F /Q
Del %WEBAPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleWorkflow.en-US.resx /F /Q
Del %WEBAPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleWorkflow.en.resx /F /Q
Del %WEBAPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleWorkflow.fr-FR.resx /F /Q
Del %WEBAPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleWorkflow.fr.resx /F /Q
Del %WEBAPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleWorkflow.ja-JP.resx /F /Q
Del %WEBAPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleWorkflow.ja.resx /F /Q
Del %WEBAPPDIR%\App_GlobalResources\AdobeLiveCycleWorkflow.resx /F /Q
```

```
popd
Echo Restarting IIS worker process
IISRESET
set _my_datetime=%date% %time%
@echo on
echo End Installation at %_my_datetime%
@echo off
cmd /k
```

- 2 次の変数の値を設定します。

%STSADM% Web パーツのインストール時に定義した STSADM ユーティリティの場所。

%TEMPLATEDIR% SharePoint サーバー上の TEMPLATES ディレクトリ。

%SITEURL% LiveCycle 機能を無効にするサイトの URL。

- 3 このファイルを `Uninstall-sharepoint-connector.bat` として、SharePoint サーバーへのインストール時に LiveCycle の Web パーツを展開した場所に保存します。このフォルダーには、Web パーツのインストールに使用した `install.bat` ファイルが含まれています。次に、このファイルをダブルクリックして、アンインストールを開始します。
- 4 Windows エクスプローラーで、`uninstall-sharepoint-connector.bat` ファイルをダブルクリックし、アンインストールを開始します。アンインストール中に IIS サーバーが再起動されます。
- 5 アンインストール手順の完了後、Web アプリケーションの `web.config` ファイルをテキストエディターで開きます。
- 6 このファイルから `<system.serviceModel>` `</system.serviceModel>` 要素を削除し、ファイルを保存します。

(オプション) 100 MB を超えるファイルをサポートするための LiveCycle 11 Connector for Microsoft SharePoint の設定

Adobe LiveCycle 11 Connector for Microsoft SharePoint は、デフォルトで最大 100 MB のファイルをサポートします。次の手順を実行して 100 MB を超えるファイルをサポートします。

- 16 ページの「[JVM のヒープサイズの拡大](#)」
- 17 ページの「[接続タイムアウトの延長](#)」
- 17 ページの「[executionTimeout パラメーターの追加](#)」

JVM のヒープサイズの拡大

JVM のヒープサイズを 6500 MB に拡大して、最大 500 MB のファイルサイズをサポートします。500 MB を超えるファイルの場合、JVM のヒープサイズを拡大してタイムアウトパラメーターの値を増加させます。

注意：JVM のヒープサイズを拡大する前に、十分な容量の RAM がインストールされていることを確認します。

- JBoss Application Server の JVM のヒープサイズを拡大するには
 - 1 [LiveCycle_root]\jboss\bin に移動して、run.conf.bat を開いて編集します。
 - 2 **JVM heap size (-Xmx)** パラメーターの値を **Xmx6500m** に変更します
 - 3 run.conf.bat を保存して閉じます。
- WebSphere Application Server の JVM のヒープサイズを拡大するには
 - 1 WebSphere Administration Console を開き、**Servers / Server Types / WebSphere application servers** に移動します。
 - 2 使用するサーバーを選択します。
 - 3 Server Infrastructure セクションで、**Java and Process Management / Process Definition / Java Virtual Machine** に移動します。
 - 4 「**Maximum heap size**」フィールドで「6500」を指定し、「**適用**」をクリックして次に「**保存**」をクリックします。
- Application Server の JVM のヒープサイズを拡大するには
 - 1 WebLogic Server Administration Console を開き、**Environment / Servers** に移動し、使用するサーバーを選択して「**Server Start**」タブを選択します。
 - 2 **JVM heap size (-Xmx)** パラメーターの値を **Xmx6500m** に変更し、「**保存**」をクリックします。

接続タイムアウトの延長

LiveCycle 11 Connector for Microsoft SharePoint のタイムアウト値を 300,000 から 900,000 に増加させます。値を増加させるには

- 1 「LiveCycle 管理コンソール」を開きます。
- 2 サービス/アプリケーションおよびサービス/サービスの管理/ Connector for SharePoint に移動します。
- 3 「Configuration」タブで、**Timeout** パラメーターの値を「**900000**」に変更し、「**保存**」をクリックします。
- 4 アプリケーションサーバーを再起動します。

デフォルトでは、IIS 接続タイムアウト設定は 120 秒です。接続タイムアウト設定を延長するには、次の手順に従います。

- 1 **サイト** から **インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ** を開き、適切な SharePoint サイトを選択して「**詳細設定**」をクリックします。
- 2 詳細設定ダイアログボックスで、**接続制限**の下の**接続のタイムアウト**ボックスで「900」を入力し、「**OK**」をクリックします。
- 3 「**SharePoint のサーバーの全体管理コンソール**」を開き、「**Web アプリケーションの管理**」をクリックして適切な SharePoint サイトを選択し、「**全般設定**」をクリックします。
- 4 「**アップロードの最大サイズ**」で、「500」と入力し、「**OK**」をクリックします。最大ファイルサイズを最大 2,047 MB に指定することができます。

executionTimeout パラメーターの追加

- 1 Web.config ファイルを開いて編集します。デフォルトでは、ファイルは Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web server extensions\12\TEMPLATE\LAYOUTS にあります。
- 2 executionTimeout パラメーターを追加します。

既存のコード

```
<location path="upload.aspx">  
  <system.web>  
    <httpRuntime maxRequestLength="2097151" />  
  </system.web>  
</location>
```

置き換えるコード

```
<location path="upload.aspx">  
  <system.web>  
    <httpRuntime executionTimeout="999999" maxRequestLength="2097151" /> </system.web>  
  </location>
```

- 3 ファイルの変更後、ファイルを保存して閉じます。
- 4 Web アプリケーションの Web.config ファイルを開いて編集します。デフォルトでは、ファイルは Inetpub\wwwroot\wss\VirtualDirectories\VirtualDirectoryFolder にあります。
- 5 ファイルの次の行を変更します。

既存のコード

```
<httpRuntime executionTimeout="3600" maxRequestLength="51200" />
```

置き換えるコード

```
<httpRuntime executionTimeout="3600" maxRequestLength="2097151" />
```

- 6 ファイルの変更後、ファイルを保存して閉じます。